

FR柵施工マニュアル

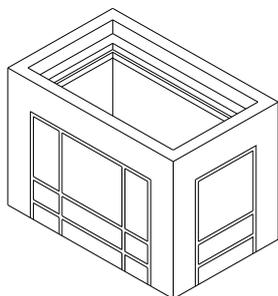


平成27年1月

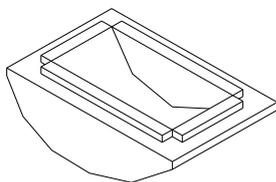
株式会社イビコン

1.製品構成

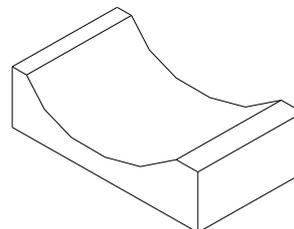
FR柵



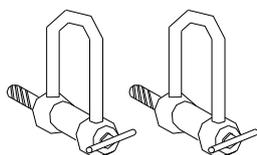
中間用ベース



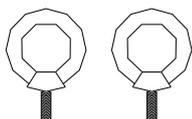
FR柵用ベース



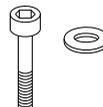
ロックシャフト
WA-40



アイボルト
M20



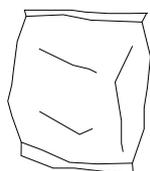
固定ボルト
六角穴付M22



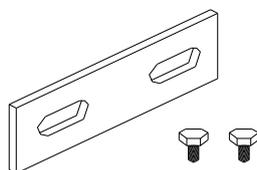
六角レンチ
M22



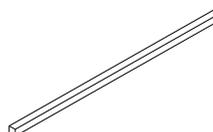
間詰材
早強系モルタル



連結プレート



止水パッキン



吊り天秤



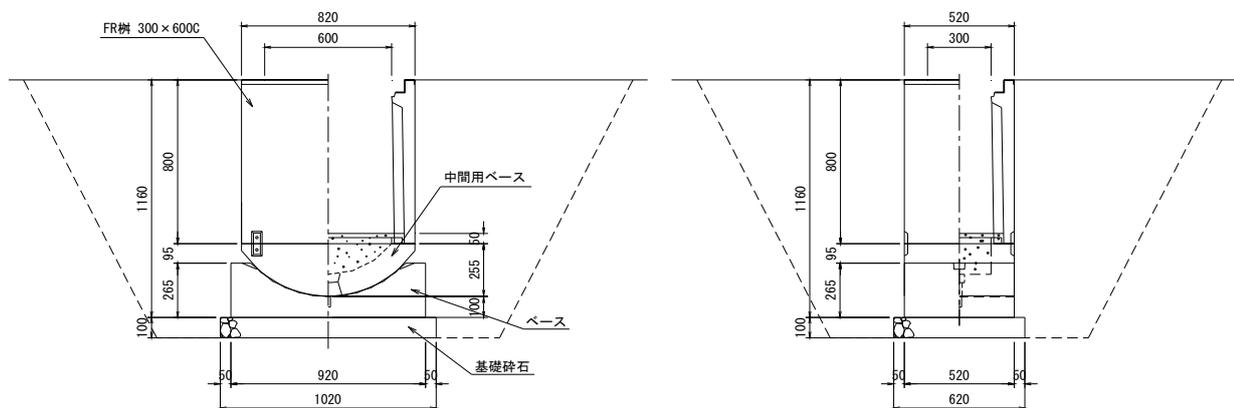
付属品数量

名称	規格	単位	数量	施工1箇所当たり 備考
FR柵		個	1	
中間用ベース		個	1	
FR柵用ベース		個	1	
ロックシャフト※	WA-40	本	2	ベース反転・施工用
アイボルト※	M20	本	2	柵施工用
固定ボルト(ワッシャー)	六角穴付M22	本	1	中間ベース、ベース固定用
六角レンチ※	M22	本	1	固定ボルト締結具
間詰材	早強系モルタル	kg	2	製品1本当たり 1/2袋(1袋4kg入)
連結プレート(ボルト×2)	t=3.2	枚	4	柵、中間ベース連結用
吊天秤		本	1	施工用
キャップ		個	2	天端インサート蓋用

※ロックシャフト、アイボルト、六角レンチ、吊天秤はレンタルとなります。

2.施工方法

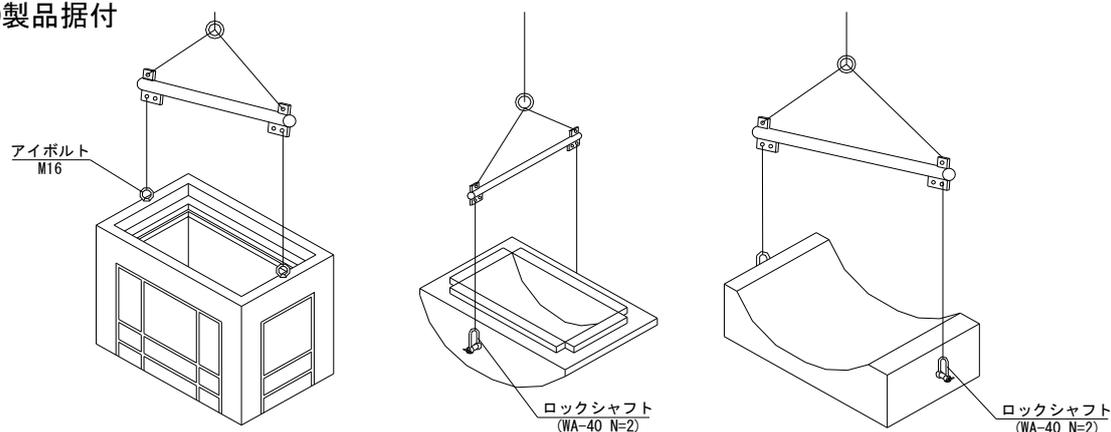
①基礎工



※図は樹サイズ300×600Cの場合

設置箇所を掘削し、設計図に基づき基礎を施工します。
 ※図面は弊社推奨のものです。現場状況や設計図書に従い、随時変更して下さい。

②製品据付



○樹
 製品天端に設けてあるインサートを利用し、アイボルトにて吊り上げます。

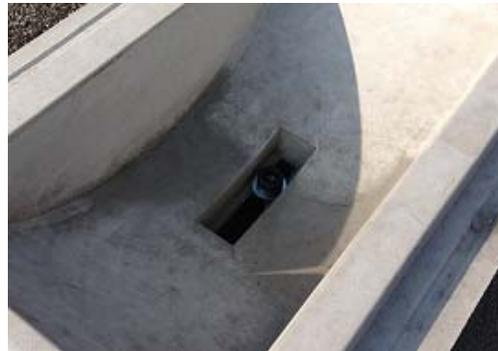
○中間ベース、ベース
 製品側面にロックシャフトを取り付け、施工します。
 ロックシャフトは回転しますので、吊り上げ時に衝撃を加える等しますとベースが回転するおそれがありますので、取扱いには十分注意して下さい。
 ※中間用ベース側面に、「ウエ」「シタ」の刻印がございます。施工する際には、必ず勾配に対して高くなる方を「ウエ」となるように施工してください。

③勾配調整

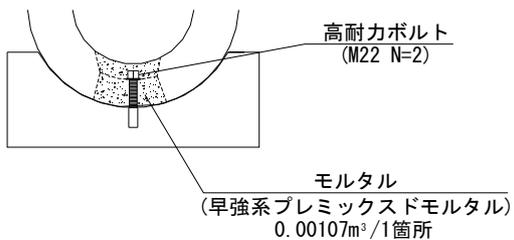


ベースを据え付け、その上に中間用ベースを設置後、バール等の工具を用いて勾配を調整します。
(およその目安として、各勾配に対して設置した際の寸法表が別途ございます)
一度柵を仮組し、高さ、勾配の確認を行います。

④ベースの固定



仮組した柵を一度解体します。
中間用ベースとベースを、M22高力ボルトにて締結します。M22高力ボルトは、付属の六角レンチを用いて締結して下さい。



固定ボルトを設置後、付属の早強系プレミックスドモルタルにて間詰します。
開口部の清掃を行い、下地処理として**十分に水湿させてください**。(乾燥したままですと付着の低下、硬化不良の原因となります)

【無収縮モルタル モルシャット】

材料と水を**水紛体比15~17%**で混ぜてください。
練り混ぜは紛体のダマが無くなるまで均一に練り混ぜてください。

※設置後養生3日で、必要強度が発現する材料となります。(25N/mm²以上)
必要強度が出ないまま車両が通過するなどの荷重が加わりますと、柵がずれる可能性がありますので、必ず必要養生期間(3日)を確保した後、交通解放してください。
※必要強度が発現出来なくなる可能性がありますので、上記標準水紛体比は必ず守って下さい。

⑤ 止水パッキンの設置



中間用ベースの上部に設けてあります溝に、付属の止水パッキンを設置します。
※柵を組み立てた際の漏水防止となりますので、必ず設置して下さい。



固定したベースの上に柵を設置し、側面4箇所をプレートで固定します。

⑥ 埋戻し、完成



※柵天端の吊りインサートは付属のキャップで蓋をしてください。